

「野村ダム改良事業 堤体貫通式」の開催について

肱川ダム統合管理事務所では、平成30年7月豪雨を契機に洪水調節機能の強化を図るための新たな放流設備を設置する改良工事を進めているところです。

本工事の実施にあたっては、令和5年6月4日の野村ダム改良事業起工式以降、仮設工事や上流仮締切の製作・据付等を行い、令和7年6月より本工事の主工種であるダム堤体削孔を鋭意進めて参りましたが、この度、無事貫通しました。

このため、流域関係者や住民等を対象に「野村ダム改良事業 堤体貫通式 [第1部]」及び「堤体貫通見学会 [第2部]」を開催いたします。

記

- 開催日時：令和7年12月 7日（日）
- 時 間：[第1部] 貫通式 10:00～11:20
[第2部] 見学会 13:30～15:00
- 場 所（第1部、第2部とも同じ）
：野村ダム下流右岸工事現場内（別紙位置図のとおり）
- 出席者：[第1部] 愛媛県知事、西予市長、大洲市長、内子町長、
南予水道企業団企業長（宇和島市長）、
国会議員、県議会議員、市議会議員、地元関係者等
[第2部] 西予市野村町の観光協会・商工会・水利組合・漁協等

※報道関係の方で取材を希望される方は12月3日（水）17:00までに、別紙取材申込書で申し込み下さい。

※雨天でも実施する予定ですが、放流体制に入る等の場合には急遽中止となる場合があります。

本施策は、広域地方計画【No.1 南海トラフ地震を始めとする大規模自然災害等への「支国」防災力向上プロジェクト】の取組に該当します。

＜問い合わせ先＞

国土交通省 四国地方整備局
肱川ダム統合管理事務所

副所長 猪熊 敬三（内線：204）
◎管理課長 多田 寛（内線：331）
代表：（0894）-72-1211

【第1部】野村ダム改良事業 堤体貫通式 概要

- 1 日 時 令和7年12月7日(日)
10時00分～11時20分 (9時30分 受付開始)
- 2 式 典 会 場 野村ダム下流右岸 (西予市野村町野村)
- 3 主 催 四国地方整備局
- 4 主な出席予定者 愛媛県知事、西予市長、大洲市長、内子町長、
南予水道企業団企業長 (宇和島市長)、
国会議員、県議会議員、市議会議員、地元関係団体など約60名
- 5 式 典 概 要
- 1) 開式の辞
 - 2) 主催挨拶
 - 3) 来賓祝辞
 - 4) 来賓紹介
 - 5) 祝電披露
 - 6) 事業概要説明
 - 7) 施工者代表者挨拶
 - 8) 貫通披露・記念撮影
 - 9) 堤体削孔の施工報告
 - 10) 閉式の辞

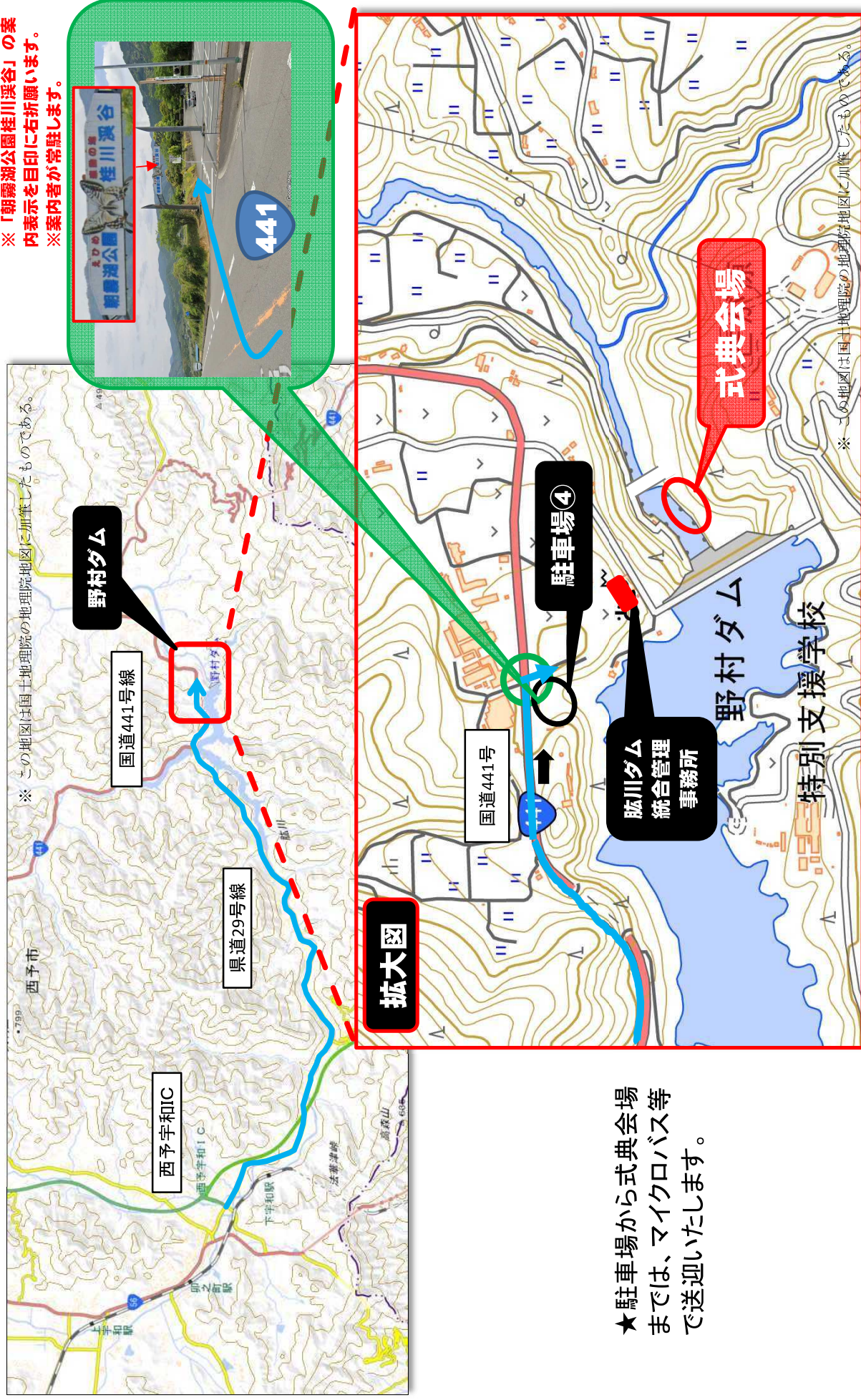
※式典終了後、削孔現場の見学 (希望者のみ)

【第2部】野村ダム改良事業 堤体貫通見学会 概要

- 1 日 時 令和7年12月7日(日)
13時30分～14時40分 (13時00分 受付開始)
- 2 会 場 野村ダム下流右岸 (西予市野村町野村)
- 3 主 催 肱川ダム統合管理事務所
- 4 主な出席予定者 西予市野村町の観光協会・商工会・水利組合・漁協など約30名
- 5 開 催 概 要
- 1) 事業概要説明
 - 2) 工事進捗説明
 - 3) 堤体貫通現場見学

別紙位置図

野村ダム改良事業堤体貫通式 会場・駐車場位置図



★駐車場から式典会場までは、マイクロバス等で送迎いたします。

取材申込書（FAX）

肱川ダム統合管理事務所 管理課 宛
FAX番号：0894-72-3895

	野村ダム改良事業 堤体貫通式 【第1部】 野村ダム改良事業 堤体貫通見学会【第2部】	
貴社名		
ご担当者氏名	氏名	
	所属部署名等	
ご担当者様 ご連絡先	電話番号	
	FAX番号	
	E-mail	
ご取材の見学会の部 (片方又は両方に○)	第1部	第2部
取材者人数	人	
車両ナンバー		

【問い合わせ先】

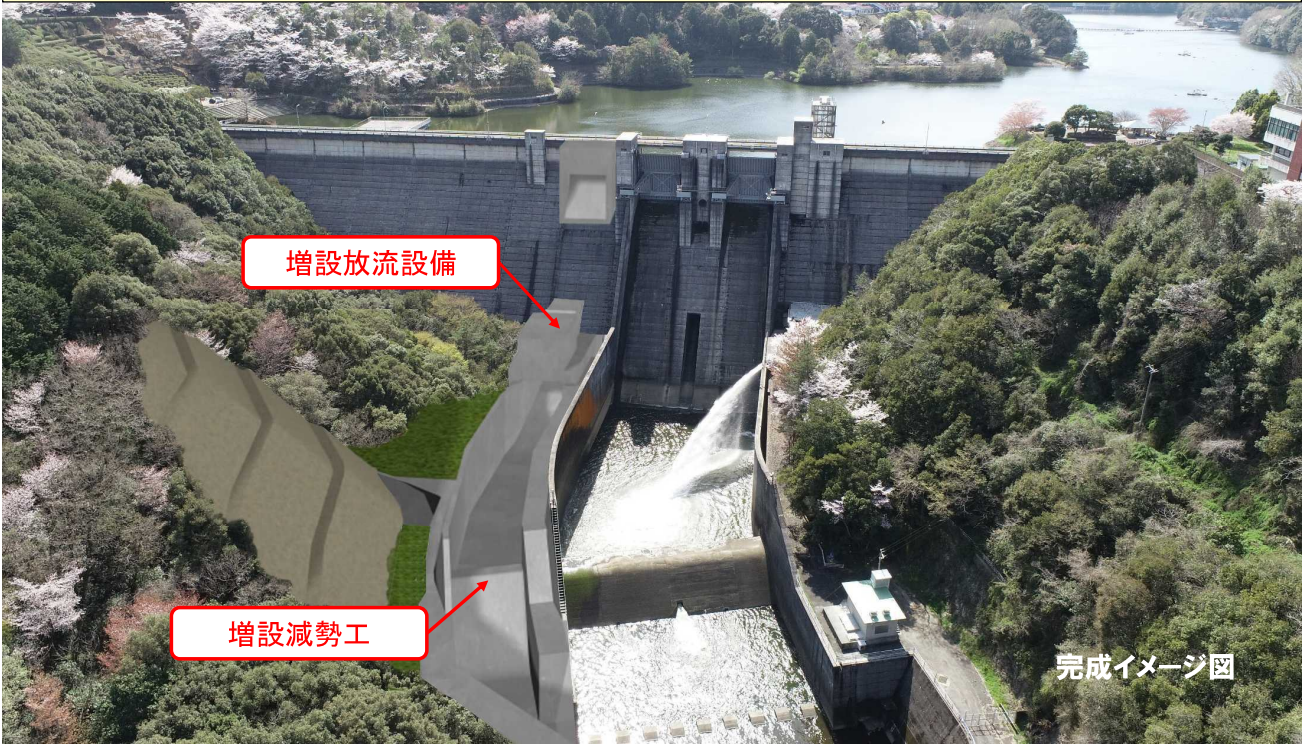
国土交通省 四国地方整備局 肱川ダム統合管理事務所 管理課
TEL 0894-72-1211 (代表)

※ 送付状は不要ですので、本紙のみをそのままFAXお願いします。

【令和7年12月3日(水) 17:00締め切り】

野村ダム改良事業の概要

- 野村ダムでは、事前放流により確保した容量を効率的に活用するため、ダム堤体に放流設備を増設する工事を実施中。
- これにより、平成30年7月豪雨と同規模の洪水を河川改修と相まって、肱川の氾濫を防ぐ事が可能。
- 令和7年11月現在、上流仮締切工の設置及び堤体削孔工が完了し、予備ゲート設備を施工中。
- 令和9年度末に完成、令和10年度から運用開始予定。



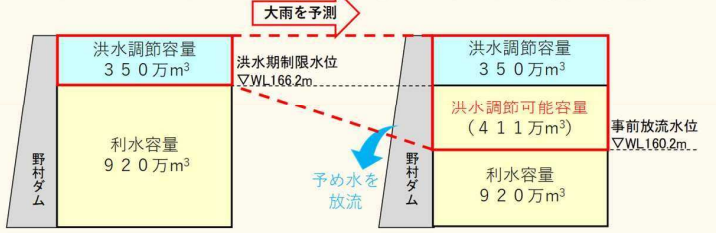
野村ダム改良事業の概要



目的 洪水調節
 工期 平成30年7月豪雨後概ね10年程度の予定

野村ダムでは、事前放流により確保した容量を効率的に活用するために、堤体に放流設備を増設します。これにより、平成30年7月豪雨と同規模の洪水を河川改修と相まって、肱川の氾濫を防ぐ事ができます。

【通常時の容量】 【大雨が予測される場合の容量】

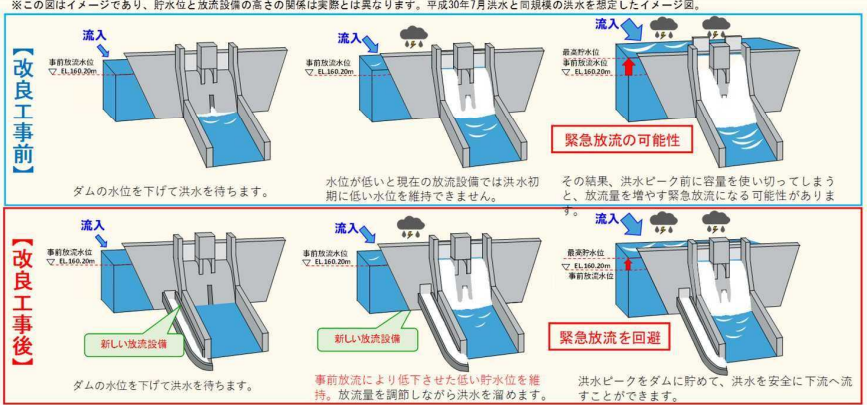


1. 容量の有効利用

- 大雨を予測すると、予め水を放流して貯水位を下げ、洪水に備えます（事前放流）。
- 利水容量の一部を一時的に洪水を貯留する容量に用いることで、ダムを大きくしなくても、ダムに貯められる水の量をこれまで以上に増やすことができます。

2. 放流設備の増設

- 事前放流を行って貯水位が低くなると、現在の放流設備では洪水初期に低い水位を維持することができません。
- 放流設備を増やして、事前放流により低下させた低い貯水位を維持します。
- 容量がすぐに満杯にならないように放流量を調節しながら洪水を貯めることができます。

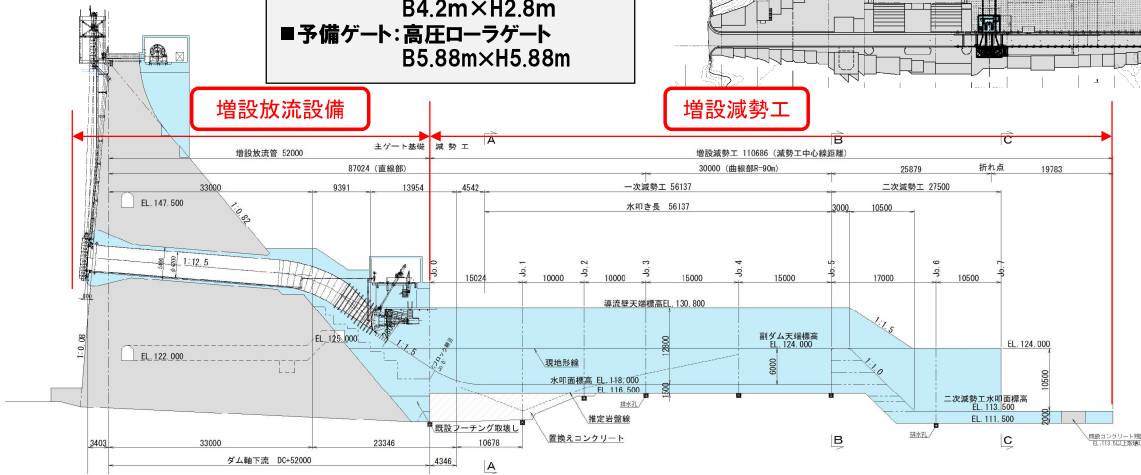


※この図はイメージであり、貯水位と放流設備の高さの関係は実際とは異なります。平成30年7月洪水と同規模の洪水を想定したイメージ図。

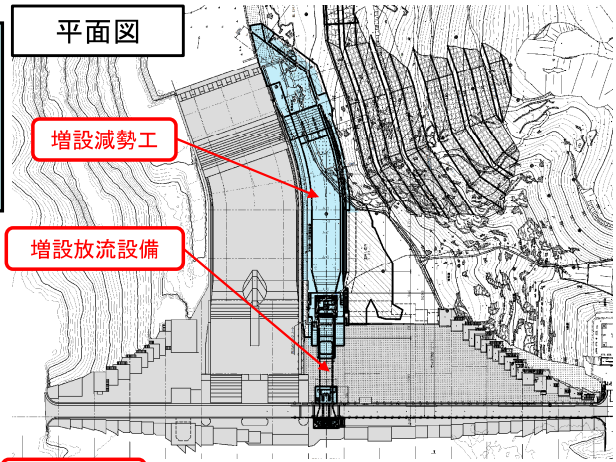
○従来の洪水調節容量350万m³に加え、事前放流により確保する411万m³をあわせた761万m³の洪水調節可能容量を有効活用するため、低い貯水位を維持出来るように新たな放流設備を設置します。

- 【新たな放流設備の諸元】
- 削孔断面: 5.4m×5.4m
 - 放流管径: φ 4.2m
 - 放流管の延長: 約52m
 - 主ゲート : 高圧ラジアルゲート B4.2m×H2.8m
 - 予備ゲート: 高圧ローラゲート B5.88m×H5.88m

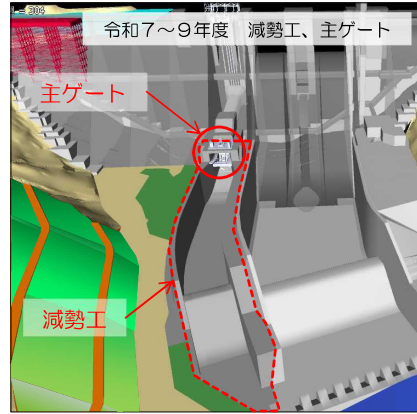
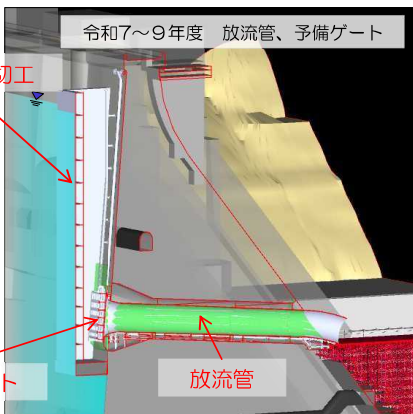
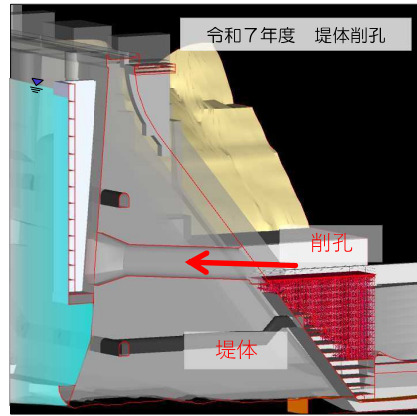
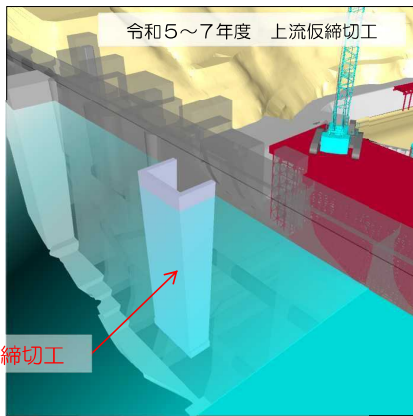
断面図



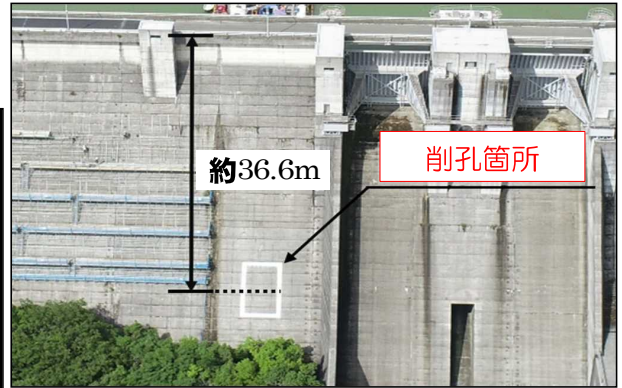
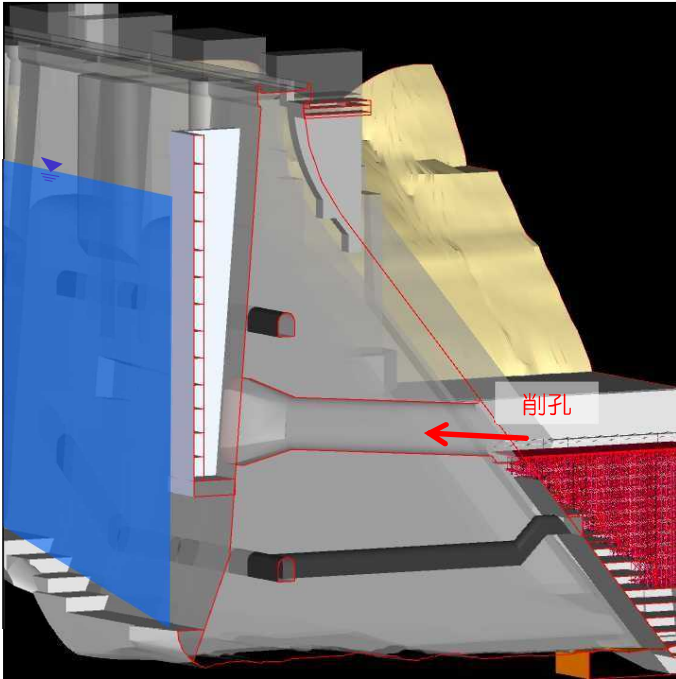
平面図



工事施工の流れ

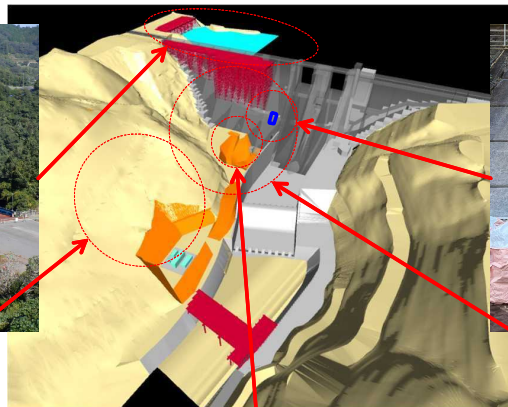


日本でもまだ事例が少ないダム堤体の削孔



現在の進捗状況 (令和7年10月末現在)

野村ダム全景



堤体削孔(令和7年度)



削孔進捗(10/31時点)
1029m³/1030m³(99%)
31.5m/31.5m